

縮小社研究会 教育分科会 「みんなで考える縮小社会での教育」の暫定報告

日時：2016年3月26日 15:45～17:30

場所：京都大学文学部第3講義室

参加者：14名

報告：漁野 亨

まず初めに以下のように問題提起を漁野の方から行いました。

前回の「反知性主義の学校教育における蔓延」の報告は、現状分析から入ったために、みんなで議論するというよりは報告が一方通行になってしまい、議論が袋小路に陥ったように思いました。それで今回は、現在の教育でこれはおかしいと思っていることや、疑問、問題を参加者全員で出し合い、解決方法やありうべき教育を考えることにより縮小社会での教育の姿がおぼろげでも見えればという形で行いました。

まずは2つのグループに分かれた後、参加者の全員の自己紹介をしてそれぞれのグループで現在の教育の問題点を出し合いました。私が属したグループの中での議論の中でなるほどと思った意見を2,3挙げると

小学校高学年から遊びがゲーム中心となっていく理由として、今の子供たちを取り巻く状況は、学校で管理され、家に帰っても、小学校ではスポーツ教室(少年サッカーや少年野球)で、中学校では部活動で管理され、勉強は塾で管理される状況の中で、自分の思いで何かをするということがない。唯一ゲームだけがバーチャルなものだとしても、自分の思い通りの世界が描けるものではないかという意見は腑に落ちるものでした。

また子供の貧困の問題も、まずはベーシックインカムを実施して一定の経済的な安定性をもたらさないと、貧困の連鎖からは抜け出せないし、今の職業観も変えることができないのではないかという話も納得できるものでした。

また今の親たちが親として育てていない(私学の場合、問題が起きても、子供たちに自分で考えさせて解決するのではなく、すぐに親が出てきて話をまとめてしまい子供に考えさせることをしない)という話も納得できるものでした。

またもう一つのグループも現在の教育についてのいろいろな問題が出てきたようです。次回の分科会では、今回出た問題の解決策を考える中で、少しでも縮小社会での教育が考えられたらと思っています。